

民衆の
ボイス

No.111

公明党 横浜市会ニュース

VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL.671-3023 FAX.681-2060

令和7年度予算成立 生命と暮らしをまもる 防災・減災の政策がカタチに!

ハード・ソフト両面からさらなる地震防災力の強化を

公明党市議団がいち早く取り組んできた、様々な提案が施策として実現しました。

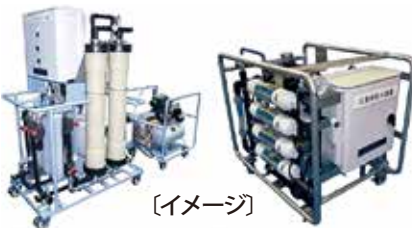
●全国初となる「TKBユニット」

TKBユニット(トイレ・キッチン・ベッド)による災害対応を開始。トイレトレーラー(5台)、キッチンカー(1台)、簡易ベッド(300台)を導入した運用が検討されます。



●浄水器による飲料水の確保

不測の事態に備えて、プールなどの水源を飲料水に活用できる浄水器が試行的に導入されます。



●新しい防災備蓄品の配備

避難者を対象に、衛生用品、栄養補助食・飲料、パーティション、寝具を配備。高齢者・障がい者には介護食・きざみ食を備蓄します。

●流通備蓄により備蓄飲料が大幅に拡充

発災時に、市と提携する民間事業者の流通在庫を避難所に供給し、飲食料や生活必需品を確保します(2食×1日分を3食×3日分に拡充)。

●上瀬谷地区に方面備蓄庫を新設

本市最大の方面別備蓄庫の整備と、再編による物資輸送の全体最適化を進めます。(5年間で完了)



道路陥没を未然に防ぐ取組みを強化

横浜市では、東日本大震災を契機に、公明党の提案を受け、平成25年度から、緊急輸送路や幹線道路を中心とした本格的な路面下空洞調査を実施しています。毎年、約100キロメートルの調査を行い、年間50か所程度の空洞を発見し、事故を未然に防いできました。1月に埼玉県八潮市で発生した事故を受けて、さらなる調査の強化を求めた結果、調査周期の短縮や、調査範囲の拡大などによる下水道起因への対策強化を図る方針が示されました。



路面化空洞調査車両を視察(平成24年6月20日)

带状疱疹ワクチンの定期接種がカタチに! 6月から対象者への個別通知を開始

- 生ワクチン(1回接種).....4千円の自己負担
- 組み換えワクチン(2回接種).....1回1万円の自己負担

《接種費用の半額程度の費用助成となり、住民税非課税世帯の方などは、自己負担を免除》

※65歳、及び60歳以上65歳未満で一定の障がい有る方を対象(※65歳以上の方は、経過措置として5歳年齢ごとを対象)



アクションレポート VOL.24

小さな声を聴く力 声をカタチに!

久保 かずひろ 横浜市議員(瀬谷区選出)

HP <https://www.k-kubo.yokohama/> BLOG <https://k-kubo.jugem.jp/>

久保かずひろ政務活動事務所
代表 久保かずひろ
〒246-0031
横浜市瀬谷区瀬谷1-20-7
真和瀬谷ビルII 102
Tel.045-298-6845
Fax.045-330-6151

令和7年度予算でカタチになった施策を紹介 安全で安心な災害に強い都市づくりを推進



音声案内ができるハザードマップを導入

視覚障害者は風水害に対し、紙やWEB上のハザードマップからは災害情報を得ることは困難です。これまで、視覚障害者にも伝わる防災情報の提供として、GPSで音声案内可能なアプリの導入による手法を提言してきました。7年度は、新たに導入するアプリでのスマホのGPS機能によって、①現在地の災害リスクを音声で取得、②発災時には、避難所の開設情報を音声による確認が可能となります。

瀬谷区の浸水対策

気候変動の影響により、全国では集中豪雨や線状降水帯などによる浸水被害が発生しています。被害が起こった地域を「浸水実績地区」として下水道管の整備を進めています。私は、繰り返し瀬谷区の浸水対策を推進し、現在も「三ツ境地区」や「瀬谷支線(大和市境の境川に接した住居地域)」で工事が続いており、進捗状況を確認しました。市は、「①『三ツ境地区』は令和2年度より、雨水管の整備に着手し、7年度は、浸水箇所周辺の雨水を取り込むための工事を進め、8年度中の完了を目指す。②『瀬谷支線』は、7年度末の完了を目指し、支線に接続する雨水管の設計も並行して進め、地区の浸水被害の解消に向けて取り組んでいく」と答弁しました。(下水道河川局 R7年度予算審議)

瀬谷区内の浸水対策



現在工事中の三ツ境地区及び瀬谷支線の施工場所

河川等がけ防災対策事業

能登半島地震では、がけ崩れにより道路が寸断され交通や物流機能が麻痺し、河川にも土砂が流れ込む被害が発生。7年度からは、新たに河川のがけ崩れ対策として、瀬谷区の阿久和川を含む市内4箇所対策が実施されます。

デジタル技術を活用した地震火災リスクの可視化

これまで地震火災の危険性を自分事として認識できるよう、デジタル技術による啓発を推進。現在は、町の立体地形模型に地震火災の燃え広がる様子を投影し、その臨場感ある表現で、リスクを地域で共有する取組が実施されています。7年度は、地震火災対策計画に定める市内全ての重点対策地域で作製し、防災イベントや、防災訓練で広く活用されます。

まちの不燃化推進事業

新規・拡充する取組として、①建築物開口部の不燃化改修工事費への補助、②地域協働でつくる防災型公園の整備(①②は不燃化推進地域のみ)、③身近なまちの防災施設整備事業は、補助対象地域が全市域に拡大されます。

③身近なまちの防災施設整備事業の補助対象地域の拡大



※横浜市資料より抜粋

まちかどホットライン

瀬谷区の3か所で、交通安全対策がカタチに!

■上瀬谷6-9付近

ぶどう直売所から高速道路方面の上瀬谷橋に至る区間に、①交差点マークを新設、②速度おとせを2か所に新設、③グリーンの安心カラーベルトを新設、④外側線(白線)を誘導用などに改良。



■阿久和東公園付近

①「飛び出し注意」や「止まれ」の注意喚起を促す標識を新設し、路面標示では、②減速ドットの新設、③飛び出し注意の再舗装、④外側線の引き直しを実施。



■阿久和西2丁目付近

原中学校付近への「スクールゾーン」や「グリーンラベル」の路面標示の整備に続けて、「速度おとせ」の路面表示を整備。

プロフィール

◆1973年11月生まれ、兵庫県神戸市出身 ◆神戸大学卒 ◆国際物流・貿易関係企業などを経て、再生可能エネルギー関連企業に勤務 ◆党神奈川県本部青年局長、党瀬谷支部支部長 ◆横浜市会/建築・都市整備・道路委員会(副委員長) 基地対策推進特別委員会 市会運営委員会 ◆妻と長女、長男の4人家族 ◆R3・R4年度 横浜市立原中学校PTA会長 ◆防災士

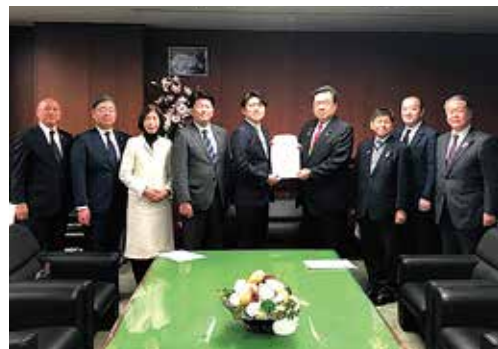
LINE募集!!



政務活動最前線

国交省に下水の老朽化対策を求める

横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市で構成される、「公明党5大市政政策研究会」は、国土交通大臣に対して、人口が集中する都市での対策は重要として防災・減災に関する要望書を提出し、老朽化するインフラへの適切な対応を求めました。下水事業への支援強化、住宅の耐震化、密集市街地の災害対策なども要望し、中野国交相は「しっかり対策していく」と応じました。



横浜美術館がリニューアルオープン!

広くて明るい広場のようなグランドギャラリーがある横浜美術館では、リニューアルオープン記念展の「おかえり、ヨコハマ」として開催されています。大規模改修により、長らく休館していた当館。新たな出会いと体験の場として、また横浜発の芸術・文化の発信拠点としての期待が高まります。



ピンクシャツデー 2025 いじめや差別のない社会を

現在は約180の国や地域に広がっているピンクシャツデーキャンペーンは、カナダで生まれたいじめ反対運動です。2月20日の市会本会議では、全員がピンク色のものを身につけて審議に臨み、「いじめのない社会」の実現を決意しました。



語れる公明党実績を巡る論戦よ

こども青少年局

「視聴覚検査事業に目の屈折検査導入を推進」



安西 英俊 (港南区選出)

こどもの弱視等の早期発見と治療に結び付けるために、公明党は、3歳児健康診査に目の屈折検査を導入するよう、以前から要望してきており、7年度予算案で示された9月から6区で屈折検査を試行的に実施するためのモデル区選定の考え方を伺いました。

局長は、「様々な規模の区や会場の状況が異なる区を選定し、健診が円滑に実施できるよう検証する」と答弁し、全区での屈折検査の早期による実施を要望しました。



医療局

「総合的なアレルギー疾患対策を」



木内 秀 (旭区選出)

「当事者や医療関係者の意見を踏まえ、総合的なアレルギー対策を進めるべき」と訴えました。

副市長は、「近年増加している食物アレルギー対応、本市全体のアレルギー医療の均てん化、災害時の対応等の多岐に渡る課題があり、関係局も複数にまたがっているが、その対策の推進には、患者、当事者団体、医療関係者などからの意見等も十分に踏まえ、組織の垣根を超えた連携でしっかりと推進する」と答弁しました。



健康福祉局

「新たな市営斎場の整備」



尾崎 太 (鶴見区選出)

増え続ける火葬需要に対応するため、鶴見区では市内で5か所目となる東部方面斎場の整備が進められており、これまで斎場前道路の利便性向上に向けて、交差点改良などを要望してきました。

今回の質疑では、来場者の安全を確保するため、神奈川県警より鶴見区方面からの右折レーンの設置が認められた事が明らかになり、令和9年3月の供用開始に向けた着実な整備の推進を要望しました。



高橋 正治 (緑区選出)

脱炭素 GREENNEXTPO 推進局

「GREENNEXTPO NOW! と共に歩こう」

上瀬谷の景観・地形を生かした会場と公園整備の方向性を質問しました。

副市長等は、「上瀬谷の特色である、相沢川の谷戸地形や泉川の源流部などを生かした景観を創出すること、地域の自然や資本を生かしながら GREENNEXTPO を開催し、将来の公園としてつかりと引き継ぎ、歴史友好・平和の象徴として、将来の横浜全体の発展につながるまちづくりを進めていきたい」と趣旨を答弁しました。

経済局

「中小企業支援策の情報発信」



武田 勝久 (磯子区選出)

中小企業が必要とする支援情報をわかりやすく得られるよう、国の方ではショート動画を活用する等の改善が図られます。これを機に、国の支援策についても積極的に情報発信を行うべきと質問しました。

局長より「様々な媒体を通じて情報発信するほか、市としても国のショート動画を広く活用していく」との答弁がありました。

選挙管理委員会

「投票所の立会人・従事者の学生起用」



久保 和弘 (瀬谷区選出)

高齢化などにより立会人や従事者の確保が難しくなっている現状を踏まえ、高校生や大学生などが投票所の選挙事務に従事する機会を拡大していくべきと訴えました。事務局長は、「高校生や大学生が投票所に従事することは、地域の皆さまの負担軽減につながり、将来を担う若い世代が選挙を身近に感じることができ、大変有効な方策であり、今年の夏の選挙に向け、取組を広げていきたい」と答弁しました。



みどり環境局

「公園遊具の管理・更新」



望月 康弘 (港北区選出)

局長は、年4回の定期的な点検を実施し、不具合を発見した場合は、速やかに補修や部品交換などの改修を行っていること、また、遊具の点検結果や劣化状況等に応じて、より安全で魅力的な遊具への更新も進めており、令和7年度は取組を加速し、6年度の約2倍の遊具等の改修や更新を予定している」と答弁しました。



政策経営局

「指定管理者制度の制度見直しを」



市来 栄美子 (都筑区選出)

指定管理施設の規模が様々ある中で、小規模な施設も、規模の大きい施設と同額の修繕金額の設定がされているため「施設の規模に応じた修繕費を設定すべき」と訴えました。また、「施設で働く職員の賃金については、適正な水準を確保できるよう、制度を見直すべき」と見解を求めました。

局長からは、「指摘のとおり、より実態を踏まえる必要があり、物価上昇も踏まえた賃金の上昇が進んでいく中で、労働環境をしっかりと確保していくことは重要で、7年度中に賃金水準スライドの手引きを改正していく」との答弁を得ました。